

エピソード53

学級のルールに保護者が
不満をもっています。



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験が
あります。
エデュサポネットのファシリテーターです。



熟年の先生にお話をお聞きします。

低学年を受けもっています。なかなか学級がまとまらず、子どもたちに注意するとすぐにへこんでしまうんです。

若い頃は学級づくりに困ったことはありますが、中堅以降は学級がまとまらないなんてことなかったのですが。





学級の中で、特に気になる
子どもはいますか。

睦夫くんは、4月後半からおなかが痛くなっ
て保健室に行くことも増えてきました。

保健室に行くだけでなく、次は学校に行
きたくないと言い始めました。





睦夫くんには、どのように対応を
していますか。

保護者と相談し、特別支援教育コーディネーターが睦夫くんに対応しています。コーディネーターが「他の教室で勉強してみる？」と聞くと、そうすると言って、マンツーマンで楽しそうだったとのことでした。

1日のうち、1時間だけ自分の学級に入っただけですが、その後にまたおなかが痛くなってしまいました。





学級の子どもたちに、どのような注意をしていたのですか。

忘れ物や宿題を忘れたときは黙っていないで、自分から言うこと、朝の会や帰りの会では、静かに座って人の話を聞くことなど、教室ではルールをつくり、守るように注意していました。椅子にだらしなく座ることも注意しました。

でも、そのどれもが睦夫くんには苦手だったのです。睦夫くんは注意を受けることに、特に過敏な感じがしました。





保護者から、先生になにかお話を
ありましたか。

保護者懇談会後に、複数の保護者から私の
つくったルールに、質問がありました。なんと
なく、保護者は不満をもっているようでした。

睦夫くんの保護者にも、毎日、睦夫くんの様子を
連絡しているのに、信頼されているようには感じ
られませんでした。こんなに気をつけているの
に…と、続けていく自信がなくなりました。





特別支援教育コーディネーターと
お話をしましたか。

困っている私に、「今の時代は、子どもを
変えるというより、こっちも変わらないと
ね。」と明るく言ってくれました。

その言葉を聞いて、はっとしました。「子ども
もや保護者も変化しているんだよな。」と。





そうですか、気づいたことがあったんですね。

睦夫くんが過ごしやすい環境になるように、つくったルールを見直そうと思っています。

そうしたら睦夫くんの困っていることも、もっと理解してあげられて、保護者ともよい関係を築けるのではないかと思います。





なみちちゃんの一言

- 子どものために、と考えた教育活動が子どもの実態に合わず、子どもに無理がかかることがあります。笑顔が見られない、発言が少ない等、気になる子どもの様子がないか、丁寧に見取りましょう。
- 子どもが生き生きと元気に活動できるために、子どもが過ごしやすい環境を学校、学級で工夫していけるといいですね。
- 時に、教師はこれまでのやり方、考え方を変えることが必要になるかもしれません。変えることには、辛さや悲しみを伴います。時代とともに、子どもや保護者も変わります。今の子どもたち、保護者を意識してみましよう。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)